

茨城高等学校・中学校で職業教育講演会

安藏巧 在籍専従執行部員が再び母校で後輩に船員の魅力を伝える

2025年11月29日、茨城県水戸市の茨城高等学校・中学校で「令和7年度職業教育講演会」が開催された。この講演会は、キャリア教育の核として位置付けられ、毎年、中学3年生から高校2年生全員を対象に行われており、将来、生徒が自身のキャリアを考えるきっかけになればと、20年近くにわたり大事に受け継がれている。

また、当校は安藏巧関東地方支部在籍専従執行部員の母校であり、海や船が身近にない生徒にその魅力を伝えるべく全日本海員組合関東地方支部も参加し、41人の生徒に向け「活躍のフィールドは海!母校後輩たちに伝える『海運・船員の世界』』というテーマで講演を行った。

卒業生として地域密着型のプレゼンで

今回の講演は、全日本海員組合関東地方支部の安藏巧在籍専従執行部員と中村将志在籍専従執行部員が講師として参加し、講演は2部構成で各70分、第1部に22人、第2部には19人の計41人の生徒が参加した。

講演では、日本において海運業がわれわれの生活にどれだけ密接に関わっているか、またその重要性について説明し、外航海運、内航海運、フェリーといった分野や、貨物毎に特化した船種の紹介に加え、船員職業の魅力や必要性、船員になるための方法について説明した。また今回は、より生徒たちに親近感を持ってもらうため、水戸市に隣接する大洗町に親しみの深い「株式会社商船三井さんふらわあ」や、日立港に寄港するRORO船などを紹介しながら、県内の大洗港、日立港や常陸那珂港と、それらの港に寄港する船舶が北海道と首都圏の輸送に大きく貢献していること、さらにコンビニチェーン「セイコーマート」はなぜ北海道と茨城にほとんどの店舗数を構えているのか、といった地域に密着した内容を多く盛り込んだ。

生徒たちは、日常生活で身近に感じられるエネルギー資源や食品、日用品といった貨物の輸出入のほとんどが船舶によるものであること、そして、いかに海運、船員が必要であるかを理解し、一層関心を抱けたように見受けられた。

講演後は「ロマンがある話だった」と笑顔で話す場面も見られた。また、昨年の講演内容がとても面白かったので今年も参加したという生徒の姿も見られ、その生徒から、今後、商船系大学に進学し外航船員になることを目指したいとの力強い意思表示とともに、そのために必要な資格や語学学習、今後の進路に必要なことや今から準備できること、といった、船員になるための具体的なかつ熱心な質問も投げかけられるなど、充実した講演会となった。

「海員だより」